拡大するカシノナガキクイムシ被害

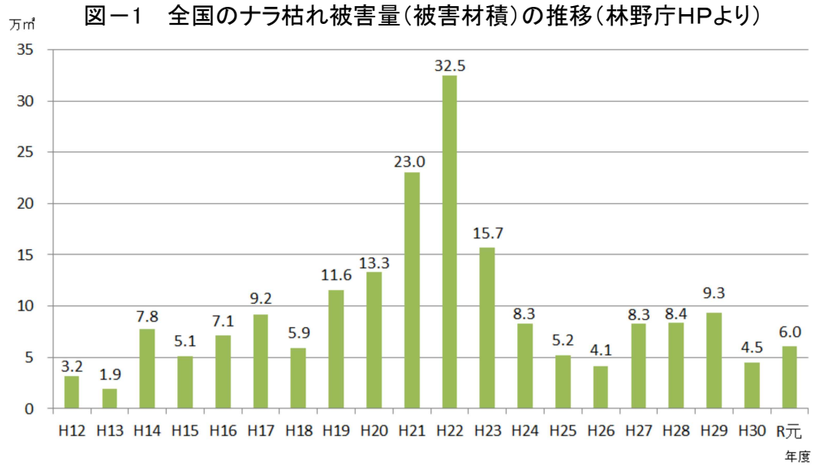
会員　大石　章

昨年「やませみ82」で報告した、天覧山で見つかったカシノナガキクイムシ（以下「カシナガ」）によるコナラ等の枯れ（以下「ナラ枯れ」）について、現状や新たな知見について報告します。

1　ナラ枯れの現状

カシナガは体長約5mmの黒い甲虫で、よく聞かれますが外来種ではなく在来種です。コナラ等の薪炭林が更新されず大径木化したため、カシナガが繁殖しやすい状況になり、被害が増えたのではないかと言われます。6-7月に既被害木から成虫が発生（1本の木から数百匹も）し、7-10月にコナラ等に穿入すると、虫に付いたナラ菌が繁殖し水を吸い上げる道管の細胞を破壊するため、木は急速に枯れます。　北陸、関西方面から被害が拡大しこちらでは数年前から治まりつつありますが（図－1）、関東では被害が拡大しつつあり、39都府県で被害が確認されています。埼玉県では3年前に確認され、狭山・加治丘陵、川越市、さいたま市、上尾市など15市町の雑木林で被害が拡大中です。状況からはカシナガは東京都側から侵入したと想像されます。県内の被害状況・対策は県森づくり課のHP（埼玉県、カシナガで検索）を参照してください。飯能市では、私が令和2年に天覧山や加治丘陵で被害を確認し、市は枯死木の伐採、切株の被覆、伐採木の燻蒸を実施しました。市によると令和3年では、飯能、中山、阿須、矢颪、下畑、刈生、平戸で確認しているとのことです。

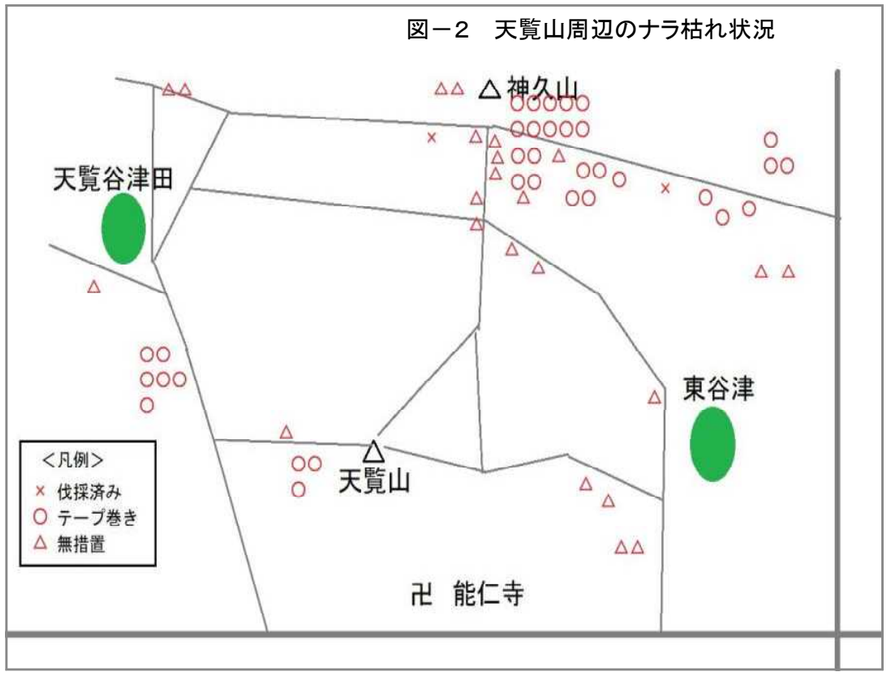
図－1　全国のナラ枯れ被害量（被害材積）の推移（林野庁HPより）



2 天覧山の状況

11月下旬に天覧山周辺だけナラ枯れの状況を調査してみました（図－2）。調査は道から見える範囲で、紅葉で枯れが判別しにくい上、前日の雨でフラスが流されていたため、確認が困難でしたが、昨年より被害がかなり拡大していることが分かりました。　昨年は、夏に渇水状況になったためか被害木はほとんど枯れていましたが、今年は被害に遭っても枯れない木が多いのが特徴です。

3　被害対策の状況

被害木が大径木だと枯死することが多く、木は直径20cmを超えると一般人では伐採することが困難なほか、伐採しても放置すると翌年成虫が大量に発生し周囲のコナラ等に穿入するため、薬品での燻蒸や被覆等の処理が求められ、対策は相当な負担になります。　県内では、県と市町が協働して保全しているトラスト運動保全地（ほぼ平野部の雑木林）でも被害が拡大しており、ボランティア等による伐採、キクイムシ・トラップの設置が進められています。私は、令和2年10月に上尾市の都市公園でかなりのコナラが枯れているのを確認しましたが未対策でした。令和3年10月に狭山丘陵の状況も見に行きましたが、対策は枯死木の伐採が中心で、切り株の被覆などの対策が一部で行われていました。東京都側では枯死木の伐採に都の補助が出るため、伐採するのは枯死木のみとのことでした。埼玉県側でも予算措置が検討されているようです。まだ倒木や枯れ枝の落下などによる人身被害は顕在化していませんが、数年後には着実に増えてくることでしょう。現在の被害拡大状況を見ると、根絶は難しいと思われますので、最低限倒木・落枝による人身事故を防ぎつつ、関西などの先行地域のように沈静化するのを待つのが現実的かも知れません。このため、当会では令和3年11月、飯能市に伐採・処理等の補助、被害状況の情報提供などを要望しましたが、要望内容はおおむね了解され、対策費の予算化がされる見込みです。　最後に、最近の某研修会で聞いた明るい話題を。カシナガの穿入を受けて枯れなかった木は免疫？を獲得し、カシナガの繁殖率が下がるとのことで、令和3年は被害木の多くが枯れずに残っていますが、このまま残る可能性もあります。また、幼虫は木ではなく、虫が持ち込んで繁殖した酵母菌を食べるので、例えばシイタケを植菌すれば、酵母菌が負けて幼虫が餓死するのではないかとの話もありました。先日は、ナラ枯れ木からナラタケが生えていたので、採っておいしくいただきました。飯能市森林づくり推進課では、ナラ枯れ被害情報を求めていますので、被害木を見つけたら連絡をお願いいたします。

図－2　天覧山周辺のナラ枯れ状況